

研究区分：特別研究（個人）萌芽的研究
**研究課題：地域看護活動に於けるソーシャル
キャピタル概念の有用性に関する
基礎的検討**

共同研究組織：

代表者 肥後恵美子（看護学部 助教／地域看護学）

研究経費：69,000円

研究実績の概要：

1. 研究の目的・概要

1) 研究目的

近年、生活習慣病患者は増加傾向にあり、地域ではその予防のために様々な取り組みが開始されている。しかし、生活習慣病患者の増加は未だ減少傾向に移行していない。また、生活習慣病患者の自己管理行動継続の困難性は現存する問題であり、適切な生活習慣の獲得という行動変容に至る患者は多くはない。

このような状況から研究者は、行動変容に対する探求の一環として地域で生活しているⅡ型糖尿病患者の食べることの語りを解釈し、食べることの意味を記述した。その結果、地域で暮らすⅡ型糖尿病患者の自己管理行動の実施と継続については当事者の自己管理の支えとするために構築された他者との関わりが影響を及ぼしている可能性が示唆された。

人との関わりについての概念の一つに、「social capital（以下、SCとする）」がある。SCは、個人の行動に注目した社会学の分野で涵養された概念であり（中略）、概ね「信頼」「規範」「ネットワーク」という3つの要素からなり、さらにそれらから得られる「特徴」「能力」「資源」であると理解することができる概念である。SC研究は、パットナムによりマクロレベルでの測定が可能となったことから発展し、現在では健康との関連性を捉えるために国家レベルでのSC測定をはじめとした、様々な研究が行われている。

現在、地域保健活動においては、適切な生活習慣の獲得のために、生活習慣病予防教室をはじめとした集団に対する保健事業の開催と、終了後の同窓会などによる継続的な支援ための取り組みがなされている。しかし、似通った生活状況にあり、なおかつ健康的な生活習慣の獲得という目的を同じくする人との関わりは、健康行動にどのように影響するのかを明らかにした研究は見られていない。これらの観点に対して、地域保健活動におけるSCの有用性という側面からの検討は、地域で生活する人々への生活習慣病予防に関する保健活動としての、对人的アプローチへの評価を得る手がかりになると考えられる。そこで今回、SCが現在どのような理論として発

展しているのかを捉えるとともに、SCと健康の関連について、SCスケールを用いた既存文献の検討を行い、地域看護活動における有用性への基礎的知見を得ることとした。

2) 研究方法

文献検討を進めるにあたり、まず、社会学分野をはじめとした文献の収集と検討をおこなった。その結果、①SCは非常に大きな理論であり、それぞれの研究者の視点によって解釈が異なって発展してきていること、②パットナムのSC測定の信頼性がいまだ明確となっていないままに保健分野にて起用されていること、③パットナムの分析枠組みを用いた研究によってSCと健康との間に相関があることは明らかとなってきたことから保健医療分野での有用性が期待されるが、相関関係の方向性や詳細な変数について解明する必要があることが明らかとなった。

以上の結果をふまえ、どのようなSC変数により、健康との関連が明らかとなっているのかについて、保健医療分野における文献検索と検討を行った。検索については、医中誌、PubMedにおいてSCをキーワードとし、PubMedでは、言語の自動読みかえを避けるため、SCのLimitをTitle/Abstractに限定した。さらに、SCと健康の関連性についての有効な研究論文を得るため、医中誌、PubMedともにRCTに限定した。その結果、医中誌において抽出された文献はなかった。PubMedにおいては、8件が抽出された。更に、健康とSCとのAND検索を実施したが、検索結果0件となったため、上記8件の文献から、本研究の目的に有効であると考えられる文献4件を検討対象とした。

2. 研究成果

1) 結果

4件の文献検討の結果、RCTは、SCの対象者をいくつかの特定のneighborhood（近隣地域）に居住している者を対象に限定し、その範囲においてサンプリングされていた。SCスケールは、パットナムの分析枠組みを基礎としたスケールではなく、「信頼」「規範」「ネットワーク」というSCの基本的要素を基礎としたものであると考えられた。しかし、SCスケールはそれぞれの研究で独自に作成されており、その中で精度が検証されているものの、SCの基本的要素よりも詳細な共通要素は見出せなかった。

健康とSCの関連性については、貧困世帯については健康に影響する因子としてのSCの存在が明らかとなっていたが、貧困世帯以外については、健康とSCの関連

が立証されたものはなかった。

統計手法としては、地域集団の環境要因を考慮した分析に有効とされているマルチレベルモデルが用いられていた。

2) 考 察

以上の結果から、SC は、パットナムの分析枠組みにより、マクロレベルでの測定が発展したものの、現在の保健分野においては、いくつかの neighborhood（近隣地域）とその居住者という構成のサンプリングモデルによる実証研究が発展しつつあると考えられる。地域看護活動においては、住民とその地域を視野にいれた現象に関する研究が必要であると考えられ、サンプル数のみの集積による分析では十分とはいえない。そのため、前述したような環境要因を考慮した研究デザインによる研究が必要であると考えられる。

また、今回の結果からは、貧困世帯における SC と健康との関連が明らかになっていたことから、SC 研究は、貧困世帯に対する支援の必要性と評価のための研究において有効であると考えられた。

3. 研究成果の発表

1) 学会その他の学術雑誌への掲載

地域保健関連の学会への発表準備を進める予定である。